

ばい煙に関する説明書

事業者名

事業場名

設備名

年 月

ばい煙に関する説明書

一 設置しようとする発電設備等の概要

| | | |
|------------|----------------------|-----------|
| 事業者名 | | |
| 代表者氏名 | | |
| 代理人の職・氏名 | | |
| 住所 | | |
| 事業場の名称 | | |
| 事業場の所在地 | | |
| ばい煙発生施設の概要 | ばい煙発生施設 番号及び名称 | |
| | ばい煙発生施設の 型式 | |
| | 蒸発量又は焼却能力 | |
| | 加熱面積又は 火格子面積 | |
| | 燃料の燃焼能力 (重油換算) | |
| | 発電設備等の番号 発電設備等の出力 | |
| | 設置年月 | |
| | 着工・使用開始予 定年月 | 年 月 ～ 年 月 |

- (注) 1 ばい煙発生施設番号及び名称の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる号番号及び名称を記載すること。
- 2 ばい煙発生施設がボイラーの場合は、蒸発量を記入すること。
- 3 ばい煙発生施設が発電設備又は動力設備の場合は、設備の番号及び出力を記入すること。

二 ばい煙発生施設使用の方法（最大連続時）

| | | |
|-------------------------|---|-------------------------------|
| 工場又は事業場における 施設の名称・番号 | | |
| 排出基準 | 硫黄酸化物 | m^3N/h |
| | （規制K値） | （ $K = \quad$ ） |
| | 窒素酸化物 | ppm（容量比） |
| | ばいじん | mg/m^3N |
| 使用燃料 | 種類 | |
| | 発熱量 | kJ/kg （低位） |
| | 比重 | |
| | 硫黄分 | %（重量比） |
| | 窒素分 | %（重量比） |
| | 灰分 | %（重量比） |
| | 使用量 | kg/h （ l/h ） |
| 排煙条件 | 排出ガス量（湿り） | m^3N/h |
| | 排出ガス量（乾き） | m^3N/h |
| | 排出ガス温度 | $^{\circ}C$ |
| | 排出ガス速度 | m/s |
| | 煙突の実高さ | m |
| | 煙突の有効高さ | m |
| | 排出ガス中の酸素濃度 | %（容量比） |
| 排出ばい煙 | 硫黄酸化物の量 | m^3N/h |
| | 硫黄酸化物の濃度 | ppm（容量比） |
| | 硫黄酸化物の最大 着地濃度 | ppm（容量比） |
| | （相当K値） | （ $K = \quad$ 相当） |
| | 窒素酸化物の量 | m^3N/h |
| | 窒素酸化物の濃度 | ppm（容量比）（ $O_2 = \quad\%$ ） |
| | ばいじんの量 | kg/h |
| | ばいじんの濃度 | mg/m^3N （ $O_2 = \quad\%$ ） |
| 参考事項 | <p>この欄には、以下の事項等について記載すること。</p> <p>(1) ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設について、一工程中の排出量の変動の状況</p> <p>(2) 窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法</p> <p>(3) 1日の標準稼働時間が24時間に満たない場合の稼働時間</p> <p>(4) ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用（専ら非常用において用いられるものをいう。）の別</p> | |

三 ばい煙の処理方法

該当なし

四 添付図面

- (1) 発電所の所在地を示す5万分の1の地形図（設置場所を明示すること。）
- (2) 発電所構内配置図（ばい煙発生施設、ばい煙処理設備、煙突の設置場所を明示すること。）
- (3) ばい煙発生施設構造概要図（主要寸法及びバーナーの位置又は、シリンダ径及び気筒数等を明示すること。）
- (4) ばい煙処理設備構造概要図（主要寸法、各部名称等を明示すること。）

- 備考
- 1 本説明書のうち一～四について、写しを一部提出すること。
 - 2 本説明書の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。
 - 3 非常用の設備にあっては、以下五～九について添付することを要しない。